

メロディの源流を訪ねて

シューベルトの歌曲は、その美しく親しみやすいメロディから、多くの人々に愛されてきました。その魅力的な旋律は、どこから生まれてくるのでしょうか。

詩の世界に親しみ、ゲーテ、シラー、ミュラーといった大詩人の詩に多く曲をつけ、ドイツ語による歌曲を成立させたのはシューベルト、とも言われています。

同時代の作曲家にとっても、シューベルトの楽曲はその音楽的内容の深さからも、情熱を持って探究されてきたようです。リスト、ブラームス、ベルリオーズに代表されるように、シューベルトの歌曲は大変数多くの管弦楽曲に編曲され、またリストは、数々の歌曲をピアノソロ曲にも編曲しました。そして今回プログラムに取り上げる「魔王」ソロ版は、当時ヴァイオリニストとして超絶技巧でならしたエルンストの手によるものです。そこから読み解けるのは、シューベルトの歌曲(特に「魔王」)は、当代の作曲家たちがオーケストレーションせずにはいられない内容の斬新さと色彩の豊富さを持ち、各楽器の名手たちに最高難度の技術を持って歌わせたいと思わせる、抗いがたい魅力(魔力?)とパワーを内包しているといってもいいのではないのでしょうか。

シューベルトは、規模の大きなコンチェルトは書きませんでした。同時代と後世の作曲家に与えた影響は測り知れません。後の音楽的発展の萌芽と名人芸(ヴィルトゥオーゾ)的な側面も兼ね備える、そんな思いからお届けする、オール・シューベルト・プログラム。お楽しみいただけましたら幸いです。



宮崎陽江

宮崎陽江(ヴァイオリン) Yoë Miyazaki, Violin

ニューヨーク州イサカ市生まれ。幼少期をバリで過ごす。桐朋学園大学卒業後、米国タングルウッド音楽祭(小澤征爾監修)に参加。その後ジュネーヴ高等音楽院に留学、ジャン・ピエール・ヴァレーズに師事、室内楽をガボール・タカーチ、モダン・バロック両楽器をハンス・ハインツ・シュネーベルガーに師事。1997年同音楽院をブルミエ・プリ(一等賞)で卒業。以後ジュネーヴを拠点に、ヨーロッパと日本の各地で演奏。ジュネーヴ室内管(スイス)、ブドヴァイス管(チェコ)、バス・ノルマンディー管(フランス)、スロヴァキア・フィル、北東ドイツフィル、デュッセルドルフ響(ドイツ)と共演。日本では札幌コンサートホール Kitara、銀座・王子ホール、浜離宮朝日ホール等でのリサイタル、読響、東フィル、東京シティ・フィル、札幌響との共演他、サントリーホールにてスロヴァキア・フィルとの再共演を果たす。秋山和慶、矢崎彦太郎、大友直人、レオシュ・スワロフスキー等の指揮者と共演。師であるヴァレーズらとフランスの優れたピアノ五重奏曲の発掘・録音を行うなど、室内楽、録音の分野でも積極的に活動。作曲、編曲も手掛ける。



マルコ・グリザンティ(ピアノ)
Marco Grisanti, Piano

サン・チェチーリア音楽院教授。これまでに、ウート・ウーギ、フェリックス・アーヨ、フランコ・ペトラッキ、庄司紗矢香、エマニエル・パユら著名アーティストと共演多数。活動は欧州、アメリカ、日本各地に亘る。サン・チェチーリア音楽院にて、ピアノをマヤ・サマルギエヴァに師事、ディプロマ最高位、「クム・ラウデ」賞受賞。同時に、同音楽院で作曲も学ぶ。室内楽奏者としても定評があり、ラジオ、テレビにも多数出演している。欧州各地のマスタークラスに招聘されるなど、後進の指導にも力を注いでいる。



ハンス＝クリスチャン・サルノー(ヴィオラ)
Hans-Christian Sarnau, Viola

ケルン音楽大学にて、ヴァイオリンをイゴール・オジムに、室内楽をアマデウス・カルテットに学ぶ。後、ウィーン国立音楽大学にてハット・ペイエールのもとソリストディプロマを取得。また、ワルター・レヴァイン、マックス・ロスタル各氏に師事。数々の国際コンクールで受賞。シュトゥットガルト州立管弦楽団ヴァイオリン首席奏者を務めた後、カメラータ・ド・ベルン、コレギウム・ノヴム・チューリヒ、モジリアーニ・カルテット、オルティス・カルテットのメンバーを歴任。現在ローザンヌにて教鞭をとりながら、室内楽のエキスパートとして精力的に活動している。



コンスタンタン・ネゴイタ(チェロ)
Constantin Negoita, Cello

ベルン交響楽団チェロ首席奏者。ブカレスト音楽院にてソリストディプロマを取得。後、ジョルジュ・エネスコ管弦楽団において研鑽を積んだ後、奨学金を得てジュネーヴ州立高等音楽院にて学び、ブルミエ・プリ(一等賞)を授与される。ローザンヌ室内管弦楽団の首席奏者を務めたのち、現職。オーケストラの活動と共に室内楽奏者としても精力的に活動、国際音楽祭参加、欧州各国のテレビ、ラジオ出演多数、活動範囲も欧州、アメリカ、日本と広範囲に亘っている。



藤澤光雄(コントラバス)
Mitsuo Fujisawa, Contrabass * 旭川公演

コントラバスを、林雄一、長汐寿治、ルードヴィッヒ・シュトラハイヤー各氏に師事。1965年札幌交響楽団入団。その後ウィーン国立音楽大学留学を経て、1987年札幌交響楽団首席奏者に就任。2003年札幌交響楽団を定年退団。1994年芸術の森美術館ミュージアムソロコンサート出演。2003年札幌コンサートホール Kitara チェコ芸術週間にて、ブラジャーク弦楽四重奏団と共演。2009年ソロリサイタル開催。その他、室内楽、オーケストラなど幅広く活躍。後進の指導にも情熱を注いでいる。



飯田啓典(コントラバス)
Hironori Iida, Contrabass * 札幌・東京公演

1988年洗足学園大学音楽学部入学。在学中より全国の主要オーケストラにて客演のほか、室内楽、スタジオ録音等を主体として活動。1996年札幌交響楽団入団。2000年より同団副首席奏者をつとめる。これまでにコントラバスを田中伸司、井戸田善之、故 江口朝彦、中博昭の各氏に師事。2005年ジョイントリサイタルにおいて札幌市民芸術大賞受賞。札幌大谷大学、北海道教育大学各非常勤講師。



¥3,000(税込)
OVXC-00080

「Rhapsode de l'aube 暁のラプソード」
本CDのために書下ろした自作曲も収録！
創造の息吹を感じる、こだわりの1枚。

収録曲：アヴェ・マリア(バッハ＝グノー)／
タイスの瞑想曲(マスネ)／ワルツスケルツォ
(チャイコフスキー)／春のコンチェルティー
ノ(ミヨー)／暁のラプソード(宮崎陽江)他
録音：2016年6月6-9日 稲城iプラザ(東京)



¥2,857+税
OVXC-00072

「PASTORALE 宮崎陽江 プレイズ ミヨー」
宮崎陽江が拓(ひら)く新たな天地。
ミヨーの豊穡を描く稀少なアルバム！

収録曲：ソナチネ・パストラル／3つのパガニー
ニのキャプリスの協奏的二重奏／シネマ幻想
曲／世界の創造(ピアノ五重奏版)
録音：2012年12月8-11日
ルール・ブルー(ラ・ショウドフォン)



¥2,857+税
OVXC-00057

「宮崎陽江 プレイズ バルトーク」
無伴奏から弦楽四重奏曲まで。
4作目のアルバムでバルトークに挑む！

収録曲：ルーマニア民俗舞曲／ヴァイオリ
ン・ソナタ第1番／弦楽四重奏曲第4番／
無伴奏ヴァイオリン・ソナタ
録音：2010年6月4-9日
フェニックス・スタジオ(ブダペスト)